

『生命の輝き ホモデウスの生還』Kindle 版

岸本 吉生

定価 990 円



金融ファクシミリ新聞社

中高生と大人とのつながりの場 「常若甲子園」を主宰する岸本 吉生の思いを綴った日々の記

『生命の輝き ホモデウスの生還』

ひとりの高校生が書いた投稿と、売上1兆円の会社の社長さんが書いた投稿ではどちらがたくさん見られるでしょう。どちらが共感をもたれるでしょう。30年前だったら比較にはならなかったでしょう。マスメディアしかなかったです。いまはちがいますね。ソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）の時代です。なにかとなにかを比べて優劣をつける時代ではなく、共感する時代になりました。

そんな思いから、「常若甲子園2025」を今年から開始しています。まず、富山県立富山商業高校と千葉県八街市立朝陽小学校のみなさんが出場します。宇宙と自然とい

のちのために何かをしようと考えている方なら、きっと一緒に働ける仲間がみつかると思っています。Instagramのアドレスは、official.tokowakaです。

この本を書き始めた2018年、私はベンチャー企業を研究していました。やがて農山漁村、限界集落にも健康、福祉、教育、日々のくらし、自然といのちなど、自分の生命が輝く何かをしたいという方にふさわしい仕事がたくさんあることに気がつきました。そしてそのような方のお役に立つことが私の仕事になりました。全国にある公立の小中学校と高等学校、起業塾を訪ねています。

鉱物資源がない。災害が起きてもその場所で立ち上がる。四季がある。水の恵みと動植物の恵みがある。日本で暮らすわたしたちには、わたしたちの文化と伝統があり価値観があります。それぞれの国にそれぞれの文化と伝統と価値観があります。そのことをお互いにリスペクトするホモデウスのこれからはすばらしいと思います。

年月が経つと価値が高まるものを大切に。このことは日本の価値観の特徴でしょう。だからこそ平安時代以前の神社やお寺が愛されています。手で仕事したものを大切に。これも日本の価値です。長芋もさくらんぼも。地鶏も黒毛牛も。輪島塗も大島紬も。愛情をこめて品々を手掛けることをその方自身も顧客とともに尊重します。

寄り添う。競うことも大切

岸本吉生（東京）
デザインコンサルタント

ですが競う相手にも寄り添う。平昌オリンピックでの小平奈緒選手とのふるまいは、世界の喝采を集めました。死刑判決を受けた袴田巖さんに永年寄り添った姉の秀子さん。ともに喜びともに泣く。それも私たちの美点です。

キャリア・アンカーという診断をご存じですか。あなたは何をしているときに充実するか、なにをいやだと感じるかがわかります。職業選択に役立つかとされていますが、わたしは、人生の動かない希望の星、人生の目的をさがすのに役立つと感じています。学校を出て、稼ぐ仕事に就いて、子供が生まれて、子供が巣立つ。そのあとに50年以上あるのがホモデウスの一生です。人生の目標は次々に現れます。

それを通じる「動かない希望の星」がいつみつかるとかは人それぞれです。人生の早い時期に見つかることこんなに頼りになるものはないでしょう。動かない希望の星を探すときに、この本が少しでもお役に立てばと願っています。